



2026 年 8 月 12 日

各 位

会 社 名 ダントーホールディングス株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 前 山 達 史  
 (コード番号 5 3 3 7 東証スタンダード)  
 問合せ先 取締役総務部長 田 中 靖 久  
 (T E L (06) 4795-5000)

## 特別損失の発生、2026 年 12 月期第 2 四半期（中間期）連結業績予想値と実績値との差異 及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当第 2 四半期（中間期）において発生した特別損失及び2026年 2 月13日に公表いたしました2026年12月期第 2 四半期（中間期）（2026年 1 月 1 日～2026年 6 月30日）の業績予想値と実績値との間に差異が生じ、また、2026年12月期通期連結業績予想を修正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 特別損失の内容

##### (1) 貸倒引当金繰入額

当社の連結子会社でありますダントーテクノロジーズ株式会社が保有する債権について、直近の財務状況及び今後の事業計画から、300百万円を特別損失に計上するものであります。

#### 2. 2026年12月期第 2 四半期（中間期）の業績予想値と実績値との差異

(2026年 1 月 1 日～2026年 6 月30日)

(単位：百万円)

|                                          | 売 上 高  | 営 業 利 益 | 経 常 利 益 | 親会社株主に帰属する<br>中間純利益 | 1 株当たり<br>中間純利益 |
|------------------------------------------|--------|---------|---------|---------------------|-----------------|
| 前回発表予想 (A)                               | 2,800  | △ 140   | △ 130   | △ 180               | △5円62銭          |
| 今回発表実績 (B)                               | 2,052  | △ 517   | △ 522   | △ 671               | △20円96銭         |
| 増減額 (B－A)                                | △ 748  | △ 377   | △ 392   | △ 491               |                 |
| 増減率 (%)                                  | △ 26.7 | —       | —       | —                   |                 |
| (ご参考)<br>前期第 2 四半期（中間期）実績<br>(2025年12月期) | 2,499  | △ 249   | △ 235   | 1,129               | 35円24銭          |

### 3. 連結業績予想の修正

2026年12月期通期連結業績予想数値の修正（2026年1月1日～2026年12月31日）

（単位：百万円）

|                          | 売上高    | 営業利益  | 経常利益  | 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | 1株当たり<br>当期純利益 |
|--------------------------|--------|-------|-------|---------------------|----------------|
| 前回発表予想（A）                | 5,900  | △ 150 | △ 140 | △ 260               | △8円11銭         |
| 今回修正予想（B）                | 5,200  | △ 380 | △ 350 | △ 810               | △25円27銭        |
| 増減額（B－A）                 | △ 700  | △ 230 | △ 210 | △ 550               |                |
| 増減率（％）                   | △ 11.9 | —     | —     | —                   |                |
| （ご参考）<br>前期実績（2025年12月期） | 4,915  | △ 664 | △ 653 | 740                 | 23円10銭         |

### 4. 差異及び修正の理由

2026年12月期第2四半期（中間期）の業績につきましては、タイル事業においては、販売体制の強化及び指定力の向上、高付加価値商品の拡販による利益率の改善に努めて参りましたが、主力市場である分譲・賃貸マンション分野では、建築コストの上昇に伴う事業計画の見直しや着工時期の延期に加え、コスト削減を目的とした外壁タイルの使用範囲の縮小や他素材への変更が進む傾向が続きました。このため、住宅着工戸数の増減がそのままタイル需要の回復につながる状況ではなく、集合住宅向け外壁タイルの市場は、引き続き厳しい状況で推移いたしました。また、原材料、燃料及び運賃等の急激な物価の高騰、円安の進行等の影響を大きく受け、タイルを取り巻く事業環境は引き続き非常に厳しい状況にあり、売上高417百万円、営業利益109百万円、当初の予想を下回る結果となりました。

不動産事業においては、当第2四半期（中間期）で媒介契約を締結し、売上を見込んでおりました媒介報酬が第3四半期にずれ込んだことにより、売上高347百万円、営業利益245百万円、当初の予想を下回る結果となりました。

発電機事業においては、大手通信企業グループ等の外部販売網を通じた自治体向け非常用LPガス発電機の導入推進や可搬型発電機の普及拡大に努めて参りましたが、当初、当第2四半期（中間期）に見込んでいた売上が、第3四半期以降にずれ込むこととなり、売上高59百万円、営業利益20百万円、当初の予想を下回る結果となりました。

蓄電池事業においては、事業化に向けた用地及び権利の取得を計画通り推進いたしました。

これらの結果、経常利益については392百万円下回る結果となり、親会社株主に帰属する中間純利益については、上記の特別損失を計上したこともあり、491百万円下回る結果となり、通期の業績予想につきましては、第2四半期（中間期）の業績を踏まえ、下方修正することとなりました。

（注）上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

以 上